

新旧発想いろいろ

壁面緑化のアイディア 9

「省エネ」を考えたこの夏、冷房効果を高めるためにゴーヤーなどを窓際に植える景色がよく見られたものです。壁面緑化への意識が高まるなか、本誌編集部では新旧さまざまな事例を取りました。

壁面緑化の手法には、主に登攀型、下垂型、基盤成型の三種類があります。最も

ポピュラーなのは登攀型で、ワイヤーを壁面に設置してヘデラなどの蔓性植物を這わせる方法。下垂型は、ツルニチニチソウなど下へ枝垂れて伸びる植物を壁面上部に植栽して緑化する方法です。そして最近いちばん注目されているのが基盤成型で、植栽基盤を壁面に設置して、壁に植栽する方

法。蔓性植物や下垂する植物に限らず、さまざまな植物を多種類組み合わせられるため、緑のグラデーションが実現でき、装飾性が高まるのがメリットです。自動灌水システムを組み込んだ専用資材が、家庭向きにも新たに開発されており、なお進化を続けて新しい潮流になるとみられます。

撮影／成瀬友康
本誌・大見讀星斗
取材・文／長田節子

1 元祖壁面緑化、外壁全体を覆う登攀する葛植物

東京・世田谷の住宅街で出会った葛で覆われた緑の家。道行く人の心を和ませる小さなオアシス。葛は直接壁面に付着する植物。登攀型壁面緑化は、比較的ローコスト、ローメンテナンスな手法。

2 前庭がなくてもできる玄関の緑化演出

わずか28センチのスペースを生かしたランドスケープアーキテクト・大橋鎧志さん（M&N環境計画研究所）の自邸玄関の演出。30センチのビラカンサの苗木を植栽し、5年間で格子状に仕立てたという。5月に白い花、冬には赤い実が楽しめる。

3 株立ちの樹木でみずみずしい緑のスクリーン

約5平方㍍に株立ちのヤマボウシやモミジなどを植栽し、目隠しと暑さ対策に。冬は落葉して光が入り暖かい。（遊空間設計室 一級建築士事務所）



5 蕎熱体となるコンクリートをフジで覆う

西日を遮るために西面を緑化した都内の事例。左の7は同じ住宅の南面。（アネックス5×緑事業部 03-3280-2041）

6 モダンな建物の意匠として植物をまとわせる

壁面の一画に多品目を寄せ植えして意匠化。緑のグラデーションに赤紫色の葉の差し色をきかせ、建物の装飾性を高めている。（エル・ディー・ケー）



9 室内からの視線を導き、奥行きを強調

2階リビング脇の中庭壁面に設置した、ココヤシ繊維マットにシダやヘデラなどを植栽。室内からの眺めも考慮。（彦根建築設計事務所）写真／ナカサンドバートナーズ



7 省スペースでも大きな緑化が可能

狭い敷地に鉄線でできたフトンカゴ（金網）を応用した立体型の緑化システム「5×緑」を設置。植栽は里山の下草や樹木で、季節感がなくなりつつある時代に自然の移ろいをもたらす。

8 鉄線を使ったドイツスタイルの緑化テクニック

新築時に西側壁面に鉄線を張り、琉球アサガオ、バラ、クレマチスを絡ませた高木邸。ドイツ在住時代に教わった手法。

